

全国に市民農園探し求め まずは土づくりからの野菜作り

四賀ガルテナーの楽しみ

ガルテンで何してん!?

仲良し夫妻で百名山登覇へ 「残り10山で達成します!」

坊主山クラインガルテン 1-15号

益子 康範さん・和子さん夫妻

「自分で食べる野菜を自分の手で作るために、全国の貸し農園を調べていました。四賀クラインガルテンに決めたのは、ラウベが付いて年間使用料が安いこと

と、行きたい山が近いことが大きな魅力でした。申し込んで初回で入れてラッキーです」。こう話す益子康範さん(57)は、妻の和子さんと名古屋市より今春

から通い始めた坊主山ガルテナーです。早速5月のイベントで開かれた「山菜採り」に参加した際、昼食を兼ねた山菜料理の会食会で春の香りを味わい、四賀ガルテンならではの初の楽しみを満喫しました。

「実は、今も名古屋の自宅から車で1時間半の農園を借りているんです。愛知県豊田市の稲武町にある『農業小学校』で学び、すでに通算、10年以上通っていて、多い時には3カ所の農園を借りて作物を作っていたこともある」というほどの「熱中人」。名古屋近郊の日進

市にある「愛知牧場」では無農薬で野菜を栽培していたそうです。

夫婦そろって実りある生活の青写真をしつかりと描き、康範さんは55歳で早期退職を決意。和子さんも「主人が辞める前に仕事を辞めて、たづなり遊びたかった」と先

だつて退職しました。「もともとは『土のある生活をしたい』と思い続けていたことがきっかけですね。今の食」に対する不安もありますから、自分で作れば安全でおいしいし、旬の野菜は栄養価が違いますから」と康範さんが話せば「まずは土づくり。この土は硬そうですが、長期戦でいきますよ」と土に向き合う意欲満々の和子さん。ジャガイモやカボチャに加え、夏野菜はピーマン、ナス、オクラ、レタスなどを育てています。

さらに時間を自由に使えるようになった夫妻は、百名山の全山登覇に向けても、2人3脚で加速します。「最初は山好きの主人が1人で出掛けていたのですが、あるとき一緒にいったら、意外に登れることがわかったんです」(和子さん)。それから2人で次々と日本百名山に挑み、全山登覇まで、残り10山ほどに近づいています。

「今年はこのガルテンを拠点に、まず越後駒ヶ岳や巻機山などへ行きたいね」と顔を見合わせる2人。テニスも趣味というアクティブな夫妻は、クーラーのいらぬ信州・四賀クラインガルテンの夏を、さわやかな汗とともに駆け巡っています。

